被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

2015.9 一般社団法人 日本レストルーム工業会

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
229	2014/10		温水洗浄便座	神奈川県	当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。	⑦		事故原因は、コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部にメッキ不良があり、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、その影響により、コントローラー基板上のはんだ付け部にはんだクラックが生じ、絶縁不良となり、異極間でスパークし、焼損したものと考えられる。	東陶機器株式会社（現TOTO株式会社）は、当該製品を含む対象機種について、製品内部の一部接続部で接触不良が発生し、プラスチック製タンクの一部から発煙・出火に至るおそれがあることから、平成19年4月16日にホームページへ情報を掲載するとともに、翌17日に新聞社告を掲載し、注意喚起を行うとともに、対象製品について無償点検・改修を実施している。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF940
228	2014/09		温水洗浄便座	埼玉県	使用中の温水洗浄便座から熱湯が出て、幼児が火傷を負った。	③		温水用サーミスターのコネクター部で接触不良が生じたため、温水ヒーターが連続通電し、保護装置（自動復帰式の高温感知センサー）が作動した状態で、使用者が熱いと認識したまま使用を継続したことから、保護装置が故障して熱湯が放出され、火傷を負ったものと推定される。 なお、取扱説明書には、「洗浄シャワーが熱い等、故障したら使用を中止する、火傷の原因となる等」旨、記載されてなかった。	製造事業者は、他に同種事故発生の情報はないことから、措置はとらないが、今後の事故発生状況を注視し、必要に応じて対応することとした。	松下電工㈱（現パナソニック㈱）	CH633S
226	2014/08		温水洗浄便座	岐阜県	当該製品を使用中、当該製品を焼損する火災が発生した。	⑦		当該製品は、便座コードの断線部に尿等の異物が付着したことにより、発熱し出火に至ったと推定されるが、便座コードが断線した原因の特定には至らなかった。	引き続き同様の事故発生について注視していくとともに、必要に応じて対応を行うこととする。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF4111
225	2014/08		温水洗浄便座	山梨県	当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。	⑦		当該製品は長期間使用されていた便座電気コードが断線したことにより出火に至ったものであるが、便座電気コードが断線に至った原因については特定されていない。	アイシン精機株式会社は、当該製品を含む対象機種について、同社が直接販売した製品については、平成20年11月26日にプレスリリースを行い、平成20年12 月3日に新聞広告を掲載し、使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施している。 また、販売事業者である株式会社INAX（現株式会社LIXIL）においては、平成20年11月26日にプレス公表を行い 、平成20年11月27日に新聞広告を掲載し、長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施 している。 なお、不具合確認作業にて不具合が確認された場合は、事故防止のため温水洗浄便座としての使用を止めるよう呼び掛けている。	アイシン精機㈱	CW-100（ブランド㈱INAX）（注意喚起対象機種）
224	2014/07		温水洗浄便座	広島県	当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。	⑦		当該製品は、長期使用（約30年）により製品内部の給水管接続部から漏水した状態で、使用を継続したことにより、温水バイメタルスイッチの電極間が絶縁劣化して異常発熱が生じ出火に至ったものと推定される。	引き続き同様の事故発生について注視していくとともに、必要に応じて対応を行うこととする。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF401
223	2014/05	約15年8ヵ月	温水洗浄便座	広島県	温水洗浄便座から発煙し、電源プラグ付近が焼損した。	④	E2	プラグ及びコンセントに尿等の異物が付着したため、腐食してプラグ刃と刃受けとの間で接触不良が生じ、異常発熱して樹脂部が焼損したものと推定される。 なお、取扱説明書には、「本体や電源プラグ部に水や洗剤をかけない。火災や感電のおそれがある。」旨、記載されている。	製造事業者は、被害者の不注意とみられる事故であるため、措置はとらなかった。		
221	2013/12		温水洗浄便座	北海道	異音がしたため確認すると、当該製品を焼損する火災が発生していた。	⑦	―	事故原因は、コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、部品メーカーにより特定期間内に製造したコネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動により、メッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱した。その影響によりコントローラー基板上のはんだ付け部に、はんだクラックが生じ絶縁不良となり、異極間でスパークし、焼損したものと考えられる。	東陶機器株式会社（現TOTO株式会社）は、当該製品を含む対象機種について、製品内部の一部接続部で接触不良が発生し、プラスチック製タンクの一部から発煙・出火に至るおそれがあることから、平成19年4月16日にホームページへ情報を掲載するとともに、翌17日に新聞社告を掲載し、注意喚起を行うとともに、対象製品について無償点検・改修を実施している。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF965LYG
220	2013/10	約10年	温水洗浄便座	埼玉県	使用中の温水洗浄便座から異音がし、異臭がして発煙した。	⑤	C1	長期使用（約10年）により、ヒーターと温水タンクの嵌合用パッキンが劣化したため、水が滲み出して温水タンク上部に水分が溜まり、制御基板上で結露が生じたことから、電源基板上のコネクター内部で絶縁性が低下して短絡し、コネクター樹脂の一部が炭化して発煙したものと推定される。	製造事業者は、事故原因は不明とみており、他に同種事故発生の情報はないことから、措置はとらないが、今後の事故発生状況を注視することとした。	㈱INAX（現㈱LIXIL）	DT-4512
219	2008/02	約10年	温水洗浄便座	広島県	温水洗浄便座の熱交換器に亀裂が入って漏水し、漏電した。	④	G3	漏電・停電した原因は、事故品の調査を行えなかったことから、特定できなかったが、温水タンクに亀裂が入ったため、漏水して電気部品が故障したものと推定される。	製造事業者は、発火に至っていないことから、措置はとらなかった。 なお、当該製品は既に生産を終了している。 NITEは、引き続き同様の事故発生状況に注視し、必要に応じて対応することとした。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF741

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災
事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
218	2013/08	－	温水洗浄便座	岩手県	病院で当該製品を使用していたところ、臀部に低温火傷を負った。	②	F2	○当該製品は病院の個室に設置されており、詳細な使用状況は不明であった。 ○当該製品の操作部には、便座温度は「低」又は「切」にする旨、病院で注意ラベルを貼っていたが、便座温度は「中」になっていた。 ○当該製品の便座に変色・変形はなく、便座温度は「高」43℃、「中」40℃、「低」33℃で安定し、異常は認められなかった。 ○便座内部のヒーター及び温度センサーの貼り付け状態に異常は認められなかった。 ○取扱説明書には、「お年寄り、病気の方、皮膚の弱い方は、便座温度を「低」か「切」にする。長時間使用すると低温火傷のおそれがある。」旨、記載されていた。●当該製品の詳細な使用状況が不明なため、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に異常は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。	－	－	－
217	2013/05	－	温水洗浄便座	兵庫県	異臭に気付き確認すると、当該製品を焼損する火災が発生していた。	⑦	－	事故原因は、コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、部品メーカーにより特定期間内に製造したコネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動により、メッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱した。その影響によりコントローラー基板上のはんだ付け部に、はんだクラックが生じ絶縁不良となり、異極間でスパーク、焼損したものと考えられる。	東陶機器株式会社（現TOTO株式会社）は、当該製品を含む対象機種について、製品内部の一部接続部で接触不良が発生し、プラスチック製タンクの一部から発煙・出火に至るおそれがあることから、平成19年4月16日にホームページへ情報を掲載するとともに、翌17日に新聞社告を 掲載し、注意喚起を行うとともに、対象製品について無償点検・改修を実施している。	TOTO㈱	TCF970
216	2013/03	20年以上	温水洗浄便座	和歌山県	当該製品を焼損する火災が発生した。	⑦	－	調査の結果、当該製品は、長期使用（20年以上）により本体と便座間に接続された中継コードに屈曲が繰り返されたため、コード内の電力線の1本が断線、スパークし、中継コードの一部が焼損したものと推定される。	引き続き同様の事故発生について注視していくとともに、必要に応じて対応を行うこととする。	松下電工㈱ （現パナソニック㈱）	CH72S1NF
215	2012/12	1ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座付近から発煙し、出火した。	④	G1	事故品のノズル流量ユニット付近から出火したものと考えられるが、事故発生状況が不明であり、原因の特定はできなかった。	製造事業者は、製品に起因しない事故であるため、措置はとらなかった。	－	－
214	2013/01	－	温水洗浄便座	茨城県	異臭に気付き確認すると、当該製品から発煙し、当該製品を焼損する火災が発生していた。	⑦	－	事故原因は、コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、部品メーカーにより特定期間内に製造したコネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動により、メッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱した。その影響によりコントローラー基板上のはんだ付け部に、はんだクラックが生じ絶縁不良となり、異極間でスパーク、焼損したものと考えられる。	東陶機器株式会社（現TOTO株式会社）は、当該製品を含む対象機種について、製品内部の一部接続部で接触不良が発生し、プラスチック製タンクの一部から発煙・出火に至るおそれがあることから、平成19年4月16日にホームページへ情報を掲載するとともに、翌17日に新聞社告を掲載し、注意喚起を行うとともに、対象製品について無償点検・改修を実施している。	東陶機器㈱ （現TOTO㈱）	TCF970
213	2012/11	－	温水洗浄便座	福岡県	当該製品を焼損する火災が発生した。	⑦	－	○火災現場となったトイレには、他に出火元は確認されなかった。○タンク上部の手洗い用水栓から水を溢れさせて便座等を濡らしていたため、事故発生前から調子が悪かったとの証言がある。 ○便座は、便座コード取り込み部付近の焼損が著しく、便座プロテクター内部の配線に溶融痕が認められたが、溶融痕解析の結果、二次痕であると推定される。○便座内部に水等が浸入した場合を想定した再現試験を行った結果、トラッキング等の異常は認められなかった。 ●当該製品のヒーター線及び内部配線等に過熱 ・発火した痕跡が認められず、再現試験でも異常は発生しなかったが、出火元は他になく、事故発生以前から当該製品に不具合が生じていた原因は不明であり、製品起因か否かも含め、事故原因の特定には至らなかった。	引き続き同様の事故発生について注視していくとともに、必要に応じて対応を行うこととする。	TOTO㈱	TCF650
210	2012/07	7年	便器一体型	石川県	当該製品に着座していたところ、臀部に火傷を負った。	②	F2	○当該製品のヒーターに、貼りむら、断線などの異常は認められなかった。 ○当該製品の便座温度設定を「高」として、便座表面温度を連続測定したところ、異常な温度上昇は認められなかった。 ○当該製品に便座温度の異常上昇のエラー履歴はなかった。 ●詳細な使用状況 等が不明のため、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品の便座表面温度に異常は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。 なお、当該製品の便座ふた裏及び取扱説明書には、「長時間使用する時は、便座温度を「切」にする。お年寄りなどが使用されるときは、周りの方が便座温度を「切」にする。」旨、記載されている。	—	㈱INAX （現㈱LIXIL）	DT-V183H
209	2012/08	—	温水洗浄便座	大阪府	火災が発生し、現場に当該製品があった。	⑦	F2	当該製品の外郭樹脂は著しく焼損しているものの、温水タンク、制御基板等の各部品から出火の痕跡は認められなかった。○便座ヒーターは一部未回収のため確認されなかったが、ヒーター線の断線部に溶融痕等の異常は認められなかった。○事故品内部に焼損した紙片が複数確認された。●当該製品の使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火の痕跡が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。	措置は実施せず。	－	－
208	2012/08	約15年	温水洗浄便座	群馬県	温水洗浄便座から焦げ臭いにおいがして、本体側面が熱くなった。	⑤	G3	DC電源基板上のモーター制御用ICが異常発熱し、基板とポッティング剤が焦げて異臭がしたものと推定されるが、ICが異常発熱した原因の特定はできなかった。	製造事業者は、拡大被害に至っていないことから、措置はとらなかった。 NITEは、引き続き同様の事故発生状況に注視し、必要に応じて対応することとした。	東陶機器㈱ （現TOTO㈱）	TCF741#SG6

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
207	2012/08	15年	暖房便座	兵庫県	当該製品を使用したところ、臀部に火傷を負った。	②	F2	当該製品は、約15年間特別養護老人ホームの共用トイレで使用されていた。〇温度調節つまみが「高」の設定であった。〇当該製品の便座の温度は最高で約58℃に達していた。〇便座本体及び便座底板に亀裂が発生し、電源コードプロテクター周辺の便座の溶着部が剥がれていた。〇サーミスターリード線、ヒーター線が引っ張られ、サーミスターが便座本体から外れていた。〇サーミスターリード線を正規の位置に戻すと、便座温度が41℃になり正常な温度であった。〇便座の材質はABS樹脂であり、付着物はpH10程度の強いアルカリ反応を示した。●詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品本体の電源コードプロテクター周辺の溶着部が剥がれた状態で使用されていたため、電源コードに外力が加わった際、コードプロテクター部が外れて内部配線が引っ張られたことによりサーミスターが固定部から外れ、ヒーターの温度制御が不能となって便座の温度が高くなり、事故に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。	—	—	
205	2012/04	—	温水洗浄便座	和歌山県	当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。	⑦	-	事故の原因は、製造から長期間経過したことにより、便座電気コードが断線、発熱し、出火に至ったものと考えられる。	アイシン精機株式会社は、当該製品を含む対象機種について、同社が直接販売した製品については、平成20年11月26日にプレスリリースを行い、平成20年12月3日に新聞広告を掲載し、使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施している。また、販売事業者である株式会社INAX（現株式会社LIXIL）においては、平成20年11月26日にプレス公表を行い、平成20年11月27日に新聞広告を掲載し、長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施している。なお、不具合確認作業にて不具合が確認された場合は、事故防止のため温水洗浄便座としての使用を止めるようお願いしている。	アイシン精機㈱	CW-531 （INAXブランド） （注意喚起対象機種）
204	2012/04	約12年	温水洗浄便座	-	温水洗浄便座が焼損し、壁を汚損したほか階下へも漏水した。	④	A2	温水洗浄便座のコントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	製造事業者は、2007（平成19）年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	TOTO㈱	TCF970 （自主点検対象品）
203	2012/03	約20年	温水洗浄便座	-	温水洗浄便座の一部が焼損した。	⑤	C1	長期使用（約20年）により、便座電気コードの被覆の劣化と、便座の開閉による屈曲により、便座電気コードの芯線が断線するとともに被覆が損傷し、損傷箇所に尿や洗剤等が浸入してトラッキングが発生し、出火に至ったものと推定される。	製造事業者及びブランド事業者は、2008（平成20）年11月26日付けでホームページ、同年11月27日（ブランド事業者）及び同年12月3日（製造事業者）に新聞社告を掲載するとともに、DMを送付し長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施している。 なお、温水洗浄便座協議会では、2008（平成20）年11月17日付け新聞に事故防止のため告知を掲載するとともに、パンフレットを作成し、注意喚起を行っている。	アイシン精機㈱	CW-530 （INAXブランド） （注意喚起対象機種）
200	2012/01	15年	温水洗浄便座	-	トイレから異臭がしたので確認したところ、温水洗浄便座の内部が発熱していた。	⑤	B2	DC電源回路の電子部品（三端子レギュレーター）にはんだ付け不良があったため、はんだクラックが発生し、別の電子部品（洗浄モーター制御用IC）が過負荷状態となって異常発熱し、周辺の樹脂ケースが焦げたものと推定される。 なお、被害者は、入居時から暖房便座、洗浄機能が動作しないことを認識していたが、通電を継続していた使い方も事故に至った原因と考えられる。	製造事業者は、拡大被害に至っていないことから、措置はとらなかった。NITEは、引き続き同様の事故発生状況に注視し、必要に応じて対応することとした。	東陶機器㈱ （現TOTO㈱）	TCF740
199	2011/12	—	温水洗浄便座	福島県	当該製品が焼損する火災が発生した。	⑦	-	調査の結果、コントローラー基板の温水ヒーター用コネクター部分のパターン（回路）やAC100Vパターンが焼失しており、社告事象と一致していた。事故原因は、コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、部品メーカーが特定期間内に製造したコネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱した。その影響によりコントローラー基板上のはんだ付け部に、はんだクラックが生じ、絶縁不良となり、異極間でスパーク、発火したものと考えられる。	東陶機器株式会社（現TOTO株式会社）は、当該製品を含む対象機種について、製品内部の一部接続部で接触不良が発生し、プラスチック製タンクの一部から発煙・出火に至るおそれがあることから、平成19年4月16日にホームページへ情報を掲載するとともに、翌17日に新聞社告を掲載し、注意喚起を行うとともに、対象製品について無償点検・改修を実施している。	東陶機器㈱ （現TOTO㈱）	TCF975 （自主点検対象品）
198	2011/10	21年	温水洗浄便座	-	温水洗浄便座から焦げ臭いにおいがし、部品の一部が溶融した。	⑤	C1	長期使用（約21年）により、制御基板上の半導体リレー内部のコンデンサーが絶縁破壊し、内部の抵抗に過電流が流れて異常発熱したため、半導体リレー外郭樹脂が溶融し、焦げ臭いにおいがしたものと推定される。	製造事業者は、温水ユニット及び温風ユニットの安全装置が作動し終息していることから、措置はとらなかった。 NITEは、引き続き同様の事故発生状況に注視し、必要に応じて対応することとした。	東陶機器㈱ （現TOTO㈱）	TCF441
197	2011/11	27年	暖房便座	-	暖房便座とタンクの一部が焼損した。	⑤	C1	長期使用（27年）により、便座コードが屈曲ストレス等により半断線を生じ、発熱・発火したものと推定される。	製造事業者は、他に同種事故発生の情報がないことから、措置はとらなかった。 NITEは、引き続き同様の事故発生状況に注視し、必要に応じて対応することとした。	松下電工㈱ （現パナソニック㈱）	CH873

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災
事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
196	2011/10	約20年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座付近から出火し、便座と周辺を焼損した。	③	C1	長期使用（約20年）により、便座電気コードの被覆の劣化と、便座の開閉による屈曲により、便座電気コードの芯線が断線するとともに被覆が損傷し、損傷箇所に尿や洗剤等が浸入してトラッキングが発生し、出火に至ったものと推定される。	製造事業者及びブランド事業者は、2008（平成20）年11月26日付けでホームページ、同年11月27日（ブランド事業者）及び同年12月3日（製造事業者）に新聞社告を掲載するとともに、DMを送付し長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施している。 なお、温水洗浄便座協議会では、2008（平成20）年11月17日付け新聞に事故防止のため告知を掲載するとともに、パンフレットを作成し、注意喚起を行っている。	アイシン精機㈱	CW-530（INAXブランド）（注意喚起対象機種）
195	2011/09	約15年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座付近から発煙した。	⑤	A2	温水洗浄便座のコントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	製造事業者は、2007（平成19）年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF970L（自主点検対象品）
194	2011/08	―	温水洗浄便座	群馬県	当該製品が焼損し、周辺が汚損する火災が発生した。	⑦	－	事故原因は、当該製品の長期間使用（約29年）により、ノズル用バキュームブレーカからの漏水が生じていた状態で使用を継続していたことにより、温水バイメタルスイッチの電極間が絶縁劣化して異常発熱が生じ出火に至ったものと考えられる。	温水洗浄便座協議会（温水洗浄便座を製造・販売する企業で構成。）にて発行する「重大製品事故防止のためのお願い」のチラシの配布など、「故障したまま使い続けない」よう、消費者に安全啓発の注意喚起活動を継続している。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF401
193	2011/04	―	温水洗浄便座	北海道	当該製品を焼損する火災が発生した	⑦	－	調査の結果、製品本体内部の電気部品（温水ヒーターリレー）が焼損していた。この温水ヒーターリレーを覆う樹脂製ケースが割れており、内部の導線が錆びて断線し、溶融痕が認められた。また、温水ヒーターリレーの上部に位置する温水タンク外側のオーバーフロー用排水溝に、水道水の蒸発残留物とみられる付着物が堆積していた。以上のことから、当該製品の温水ヒーターリレーケースが何らかの要因で割れていたところ、長期間の使用（約25年）により、温水タンクの排水溝が詰まり、溢れた水がケースの割れ目から温水ヒーターリレーにかかり、そのために断線・発熱し、事故に至ったものと考えられる。なお、リレーケースの割れは、製造時に生じた可能性又は樹脂の経年劣化の可能性が考えられるが、特定には至らなかった。	引き続き同様の事故発生について注視していくとともに、必要に応じて対応を行うこととする。	アイシン精機㈱	ｼｬﾜｰﾄｲﾚFⅢ（INAXブランド）（注意喚起対象機種）
192	2011/02	―	温水洗浄便座	群馬県	火災報知機が鳴動したため確認すると、当該製品から発煙する火災が発生しており、当該製品が焼損、周辺が汚損した。	⑦	－	事故原因は、長期間の使用により、便座電気コードが断線・発熱し、発煙に至ったと考えられる。	アイシン精機株式会社は、直接販売した製品については、平成20年11月26日にプレス公表を行い、平成20年12月3日に新聞広告を掲載し、長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施している。また、販売事業者である株式会社INAXにおいては、平成20年11月26日にプレス公表を行い、平成20年11月27日に新聞広告を掲載し、長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施している。	アイシン精機㈱	CW-101（㈱INAX）（注意喚起対象機種）
189	2011/01	―	温水洗浄便座	東京都	当該製品の内部部品を焼損する火災が発生した。	⑦	－	調査の結果、当該製品は、何らかの原因でファンモーターが作動しない状態で温風ヒーターへ通電が継続し、さらに安全装置が腐食により機能しない状態であったため、温風ヒーターが異常発熱して発煙に至ったものと考えられるが、原因の特定には至らなかった。	引き続き同様の事故発生について注視していくとともに必要に応じて対応を行うこととする。	アイシン精機㈱	CW-1051（株INAXブランド）
188	2010/05	約7年	温水洗浄便座	－	使用中の温水洗浄便座から異臭がし、発煙した。	⑤	A2	メイン基板の電源コネクタピンにはんだ付け不良があったため、はんだ付け部にクラックが生じ、スパークが発生し発煙したものと推定される。	他に同種事故発生の情報はなく、拡大被害に至っていないことから、今後の事故発生状況を注視し、必要に応じて対応することとした。	アイシン精機㈱	CW-RH1
187	2010/08	約20年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の操作部から液体が漏れ出し、床面を汚損した。	④	C1	操作部内の基板に塗布された防水用ポッティング材（ポリウレタン樹脂製）が長期使用（20年）により劣化・加水分解し、液状化して操作部から漏れ出たものと推定される。	経年劣化による事故とみられ、他に同種事故発生の情報がないことから、措置はとらなかった。	TOTO㈱	SX TCF341
186	2010/09	―	暖房便座	長野県	異臭がしたため確認すると、当該製品の左側が焼損する火災が 発生していた。	⑦	－	当該製品の便座コードの芯線断線部に、溶融痕が認められ、また、断線部に洗浄液成分の付着物が検出されたことから、長期間使用（約24年）するうちに、便座の開閉により便座コード及び被覆が損傷し、芯線が断線してスパークが発生し、出火に至ったものと考えられる。	製造事業者であるアイシン精機株式会社及び販売事業者である株式会社INAXは、平成20年11月27日（（株）INAX）及び平成20年12月3日（アイシン精機（株））に新聞社告を掲載し、長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施している。	アイシン精機㈱	CF-16AL(㈱INAX）
183	2010/07	―	温水洗浄便座	北海道	当該製品の操作部が溶損し、発煙する火災が発生して、当該製 品が焼損、周辺が汚損した。	⑦	－	調査の結果、当該製品は、操作部内部の基板が焼損しており、温水ヒーター配線のコネクターの2ピンのうち1ピンが折損し、折損部には溶融痕が認められた。当該製品の製造時にコネクターピンを曲げる取付ミスがあると、コネクターピンにクラックが入り、その後にコネクターを付け直すとコネクターピンが折損することが確認できたことから、当該製品は、内部基板のコネクターに取付ミスがあり、コネクターピンにクラックが入っていた状態でコネクターを抜き差ししたことで、コネクターピンが折損したため、折損部でスパークが生じ異常発熱し発火に至ったものと考えられる。	事業者であるアイシン精機株式会社は、2010年8月、再発防止対策として、製造作業者に対しては、コネクターを取り付ける際、ピンを曲げたときは廃棄処理すること。また、修理作業者に対しては、修理等の際にコネクターに無理な力を加えないことを周知している。	アイシン精機㈱	CW-K31（㈱INAX）
181	2010/03	不明	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から焦げたにおいがし、接続コードが焦げた。	⑤	C1	長期使用（13年以上）により、便座コードに便座開閉による機械的ストレス及び尿やトイレ用洗剤による化学的ストレスが加わり、便座コードのヒーター接続線が断線、接触不良により異常発熱し被覆破壊により短絡したものと推定される。	他に同種事故発生の情報はなく、安全装置（電流ヒューズ）が作動し終息していることから、今後の事故発生状況を注視し、必要に応じて対応することとした。 なお、当該品は既に生産を終了している。	松下電工㈱（現パナソニック㈱）	CH622S

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
179	2010/01	約21年6ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座が溶融・焼損し、陶器製の洗浄用タンクが破損した。	④	C1	長期使用（約21年）により、便座の開閉による屈曲により便座電気コードの芯線が断線するとともに絶縁被覆が損傷し、尿や洗剤等が付着し、トラッキングが発生して出火に至ったものと推定される。	2008（平成20）年11月26日付けホームページに告知を掲載するとともに、同年11月27日付け新聞に社告を掲載し、DMを送付して注意喚起を行い、無償で対象製品の不具合確認を実施している。 なお、温水洗浄便座協議会では、2008（平成20）年11月17日付け新聞に事故防止のため告知を掲載するとともに、パンフレットを作成し、注意喚起を行っている。	アイシン精機㈱	H1（㈱INAX）（注意喚起対象機種）
178	2009/12	―	温水洗浄便座	埼玉県	当該製品から発煙・発火する火災が発生した。当該製品が焼損し、周辺を汚損した。	⑦	－	事故原因は、メイン基板から電解性成分が検出されたことから、長期使用（約22年）によって発生した外郭の亀裂から当該液体（電解性）が侵入・付着し、メイン基板上で短絡したものと考えられるが、焼損が著しく亀裂が発生した原因の特定には至らなかった。	引き続き同様の事故発生について注視していくとともに、必要に応じて対応を行うこととする。	日立化成工業㈱（現 ㈱ハウステック）	HC-100
177	2009/12	不明	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の一部が変形、変色し、漏水した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	2007（平成19）年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF975（自主点検対象品）
176	2009/11	約3年9ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座を使用したところ、低温火傷を負った。	③	G1	当該品の便座表面温度は、正常に動作しており、内部の部品にも異常は認められず、当該品を使用し低温火傷を負った原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	―	―
175	2009/10	不明	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座を使用中、タンク下方から発煙した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	2007（平成19）年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF970（自主点検対象品）
174	2009/10	―	温水洗浄便座	奈良県	異臭がしたため確認すると、当該製品付近から発煙しており、当該製品及び周辺を焼損した。	⑦	F2	○当該製品本体は焼損していなかった。 ○当該製品のリモコン（電池式）は外郭樹脂が焼損しているが、内部基板に発火の痕跡は認められなかった。 ●事故原因は、当該製品本体及び当該製品のリモコンに発火した痕跡が認められないことから、当該製品からの発火ではないと判断される。		―	―
173	2009/10	―	温水洗浄便座	沖縄県	当該製品が焼損する火災が発生した。	⑦	－	事故の原因は、長期使用（約27年）により、製品内部の熱交換器と伸縮ノズル間の樹脂製パイプに亀裂が生じたため漏水し、この状態で使用を継続したことにより、温水バイメタルスイッチの接続端子が腐食・断線して導通不良を起こして発熱・出火に至ったものと考えられる。	温水洗浄便座協議会（温水洗浄便座を製造・販売する企業で構成。）にて発行する「重大製品事故防止のためのお願い」のチラシの配布など、「故障したまま使い続けない」よう、消費者に安全啓発の注意喚起活動を継続している。	TOTO㈱	TCF401
172	2009/10	―	温水洗浄便座	北海道	当該製品を焼損する火災が発生した。	⑦	－	束ねられた電源コードの中間付近で断線し、溶融痕があること、製品本体内部には発火の痕跡が見られないことから、製品に起因した事故ではない。長年の使用の中での外的な衝撃などの機械的ストレスによる電源コードの損傷や、電源コードを束ねたことによる熱ストレス等によるものと考えられる。	引き続き同様の事故発生について注視していくとともに、必要に応じて対応を行うこととする。	松下電工㈱（現パナソニック㈱）	CH624S
171	2009/08	―	温水洗浄便座	長野県	当該製品及び周辺が焼損する火災が発生した。	⑦	－	調査の結果、○当該製品は半年前から脱臭機能が作動しない故障が生じていた。○当該製品の焼損状況は、脱臭ファンが取り付けられている右後側の焼損が著しい状況であった。○脱臭ファンは焼損が著しく、内部基板が焼失していた。○その他の制御基板、温水ヒーター、温風ファン、電磁ポンプ、内部配線、漏電ブレーカー、コンセント等には、発火の痕跡が認められなかった。●当該製品は、半年前から脱臭ファンに不具合が生じていたため、出火に至った可能性があるが、脱臭ファンは焼損が著しく、内部基板が焼失しているため、製品起因か否かも含め、事故原因の特定に至らなかった。	引き続き同様の事故発生について注視していくとともに、必要に応じて対応を行うこととする。	㈱INAX（現㈱LIXIL）	HBC-8812SWF
170	2009/08	約5年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の内部基板が発熱し、外部カバーにへこみができた。	⑤	A1	洗浄用水ポンプのパッキンに異物が噛み込む等により漏水が発生し、ポンプモーターが腐食し固着した際に、制御基板にモーターの過電流が流れたが、安全装置（温度ヒューズ）が付いていなかったため、駆動素子が異常発熱し、部分的に焦げたものと推定される。	2008（平成20）年12月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で点検・修理を行っている。 なお、当該品は既に生産を終了している。	㈱INAX（現㈱LIXIL）	DV－215（自主点検対象品）
169	2009/08	―	温水洗浄便座	新潟県	異常音がしたため確認すると、当該製品周辺が焼損する火災が発生した。	⑦	F2	調査の結果、 ○当該製品に溶融痕等の発火の痕跡が認められないことから、 ●当該製品からの発火ではないものと推定。	―	―	―

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
168	2009/08	約10年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から水漏れしていたが、使用できたのでそのまま使用していたところ、樹脂が焼ける臭いがし、気分が悪くなり嘔吐した。	③	G3	温水タンクに亀裂が入ったため、漏水により基板上にある電圧制御用ICの端子間でショートし、抵抗に過電流が流れて異常発熱し、基板をコーティングしている防湿材が溶融したものと考えられるが、温水タンクに亀裂が入った原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であり、発火に至っていないことから、今後の事故状況を注視し、必要に応じて対応することとした。 なお、当該品は既に生産を終了している。	TOTO㈱	TCF741
167	2008/00	約10年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から焦げ臭いにおいがした。	⑤	G3	温水タンク部で漏水が生じたため、漏水により基板上にある電圧制御用ICの端子間でショートし、抵抗に過電流が流れて異常発熱し、基板をコーティングしている防湿材が溶融したものと考えられるが、温水タンク部で漏水した原因の特定はできなかった	拡大被害に至っていないことから、今後の事故状況を注視し、必要に応じて対応することとした。 なお、当該品は既に生産を終了している。	TOTO㈱	TCF741
166	2009/07	―	温水洗浄便座	－	火災が発生し、当該製品及び周辺が焼損した。	⑦	F2	調査の結果、 〇当該製品に溶融痕等の発火の痕跡が認められないことから、 ●当該製品からの発火ではないものと推定。	―	－	－
165	2009/06	約10年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の左側から漏水した後、本体から発煙した。	⑤	G3	温水タンクに亀裂が入ったため、漏水により基板上にある電圧制御用ICの端子間でショートし、抵抗に過電流が流れて異常発熱し、基板をコーティングしている防湿材が溶融したものと考えられるが、温水タンクに亀裂が入った原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であり、拡大被害に至っていないことから、今後の事故状況を注視し、必要に応じて対応することとした。 なお、当該品は既に生産を終了している。	TOTO㈱	TCF740
164	2009/05	約9年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から焦げ臭いにおいがし、発煙した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	2007（平成19）年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱ （現TOTO㈱）	TCF975L （自主点検対象品）
163	2009/05	―	温水洗浄便座	愛知県	当該製品に向かって右側奥が溶損する火災が発生した。	⑦	－	事故の原因は、長期間使用（約20年）による便座電気コードの被覆の劣化と、便座の開閉による屈曲により、便座電気コードの芯線が断線するとともに被覆が損傷し、損傷箇所に尿や洗剤等が浸入してトラッキングが発生し、出火に至ったものと考えられる。	製造事業者であるアイシン精機株式会社及び販売事業者である株式会社INAXは、平成20年11月27日（（株）INAX）及び平成20年12月3日（アイシン精機（株））に新聞社告を掲載し、長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施している。	アイシン精機㈱	CW-530（㈱INAX） （注意喚起対象機種）
162	2009/04	―	温水洗浄便座	東京都	当該製品付近から発煙する火災が発生した。	⑦	E1	〇当該製品は、熱交換器、温水ヒーター、操作部等が著しく焼損していた。〇熱交換器の一部に腐食、炭化、溶融欠損が認められた。〇当該製品は、洗浄ノズル本体に亀裂が生じ、洗浄機能使用時に漏れた水により、バイメタルスイッチが被水する状態であった。〇使用者は当該製品が約2年前から漏水していることを認識していたが使用を継続していた。●長期使用（約24年）により当該製品がノズル本体の亀裂から水が漏れる状態であったが、使用者が修理せず約2年間そのまま使用を継続していたため、バイメタルスイッチが繰り返し被水したことで、接点腐食による絶縁不良により出火したものと推定される。	誤使用のため特に措置は実施せず、市場の動向を注視する。	－	－
161	2009/03	約12年	温水洗浄便座	－	トイレから焦げ臭いにおいがし、温水洗浄便座（ＡＢＳ樹脂製）に亀裂が入って一部が焦げていた。 なお、事故品は日常的にトイレ用洗剤で清掃されていた。	⑤	B4	亀裂の破面に溶剤亀裂を示す鏡面と疲労破壊を示すストライエーションが確認されたことから、トイレ用洗剤の影響でクラックが発生し、その状態で継続使用されたために、着座の都度、クラック部分のヒーター線への応力集中が繰り返され、ヒーター線が断線してスパークし、周囲の樹脂が焦げたものと推定される。 なお、取扱説明書及びしおりには、樹脂が傷んで、割れてけがをするおそれがあるとして、トイレ用洗剤等の使用を禁止する旨が記載されていたが、製品本体には同事項が表示されていなかった。	便座内のヒーター線の電流値は0．8A（80W）と小さく、ヒーター線が断線した場合は通電されなくなり、拡大被害に至る可能性が低いことから、既販品についての措置はとらなかった。 なお、後継機種については便座の材質をポリプロピレンに変更するとともに、製品にひび割れが入った状態のまま使いつづけると、火災や感電の原因になる旨を、取扱説明書に記載している。	TOTO㈱	TCF611#SC1
160	2009/02	約4年9ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の内部基板が発熱し、外部カバーの一部がへこんだ。	⑤	A1	洗浄用水ポンプのパッキンに異物が噛み込む等により漏水が発生し、ポンプモーターが腐食し固着した際に、制御基板にモーターの過電流が流れたが、安全装置（温度ヒューズ）が付いていなかったため、駆動素子が異常発熱し、部分的に焦げたものと推定される。	2008（平成20）年12月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で点検・修理を行っている。	㈱INAX （現㈱LIXIL）	DV－217 （自主点検対象品）
159	2009/01	不明	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の外郭の一部が変形、変色した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	2007（平成19）年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱ （現TOTO㈱）	TCF970L （自主点検対象品）
157	2008/11	不明	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から異臭がして、発煙し、機器外郭の一部が変形、変色した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	2007（平成19）年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱ （現TOTO㈱）	TCF975L （自主点検対象品）

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
156	2008/09	―	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座（ＡＢＳ樹脂製）の一部に亀裂と焦げがあり、便器部分にすすが付着していた。　なお、事故品は日常的にトイレ用洗剤で清掃されていた。	④	B4	亀裂の破面に溶剤亀裂を示す鏡面と疲労破壊を示すストライエーションが確認されたことから、トイレ用洗剤の影響でクラックが発生し、その状態で継続使用されたために、着座の都度、クラック部分のヒーター線への応力集中が繰り返され、ヒーター線が断線してスパークし、周囲の樹脂が焦げたものと推定される。 なお、取扱説明書及びしおりには、樹脂が傷んで、割れてけがをするおそれがあるとして、トイレ用洗剤等の使用を禁止する旨が記載されていたが、製品本体には同事項が表示されていなかった。	便座内のヒーター線の電流値は0．8A（80W）と小さく、ヒーター線が断線した場合は通電されなくなり、拡大被害に至る可能性が低いことから、既販品についての措置はとらなかった。 なお、後継機種については便座の材質をポリプロピレンに変更するとともに、製品にひび割れが入った状態のまま使いつづけると、火災や感電の原因になる旨を、取扱説明書に記載している。	TOTO㈱	TCF611#SC1
155	2008/4/00	約12年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の便座部に接続した配線の一部が焼損した。	⑤	G1	便座リード線接続端子部が洗浄剤や尿等の影響による腐食性のあるガスによって腐食し、リード線自体が劣化、半断線したことから、局部的に発熱し、リード線被覆が溶解すると共に、便座コードがショートし、発煙に至ったものと推定される。　なお、便座コードは難燃グレードの材料を使用していることから、拡大被害に至る可能性は低い。	事故原因が不明であるため、措置はとらなかった。	―	―
154	2007/04	約13年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から煙が出た。	⑤	A2	基板に取り付けられたヒューズ（リード線付き）のはんだ付部近傍のみ焼損していることから、はんだ付け不良のため、はんだクラックを生じて、接触不良となり異常発熱し発煙したものと推定される。	発熱、発煙のみで終息しており、拡大被害に至っていないことから、今後の発生状況を監視することとし、措置はとらなかった。	TOTO㈱	TCF471
153	2007/02	約15年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から異臭がして、ブレーカーが落ちた。	⑤	C1	長期使用（約15年）により、コントローラ基板上のスイッチング素子が熱ストレス等により内部短絡し、ブレーカーが作動するとともにスイッチング素子が発熱・発煙して異臭がしたものと推定される。	経年劣化による事故とみられ、異常時には安全装置により通電を遮断し、拡大被害に至る可能性が低いことから、措置はとらなかった。 なお、当該品は既に生産を終了している。	TOTO㈱	TCF920F＃SC1
152	2008/11	13年10ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から焦げ臭いにおいがした。	⑤	G3	温水タンクに亀裂が入ったため、漏水により基板上にある電圧制御用ICの端子間でショートし、抵抗に過電流が流れて異常発熱し、基板をコーティングしている防湿材が溶融したものと考えられるが、温水タンクに亀裂が入った原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であり、他に同種事故発生の情報はないことから、今後の事故発生状況を注視することとし、必要に応じて対応することとした。 なお、当該品は既に生産を終了している。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF840
151	2008/10	―	温水洗浄便座	新潟県	当該製品を使用したところ、下半身に火傷を負った。	②	E2	調査の結果、〇使用者は、当該製品の便座の温度が高くなっていることに気付かずに長時間使用を継続していた。〇便座の溶着部（着座部の内側）が衝撃等で破損し、内部にある温度制御用の部品（サーミスタ）が湿気等の影響で故障状態であった。〇便座の温度測定の結果、最高温度は54℃であり、通常（最大調整時38℃）より高くなっていた。●事故原因は、使用者が、便座の温度が高くなっていることに気付かずに使用したため、低温火傷を負ったものと推定される。なお、温度制御用部品の故障の原因は、衝撃等により便座の溶着部に隙間が生じ、長期間使用（約10年）によって内部に浸入した湿気等が影響したものと考えられた。また、取扱説明書には「低温やけどのおそれがあるため、病気の方等に対して便座つまみを「切」にする」旨、記載されていた。		－	－
150	2008/10	―	温水洗浄便座	東京都	当該製品の一部が発熱、発煙し、本体カバーの一部が溶ける事故が発生した。	⑦	－	事故原因は、温水洗浄用水ポンプから水が漏れ、モーター部が錆びたためにモータが固着し、洗浄機能使用時に基板部に過電流が流れるようになった際に、当該製品には温水洗浄用ポンプに過電流に対する保護装置（電流ヒューズ）が取り付けられていなかったために、発熱、発煙に至ったものと思われる。	製造事業者である株式会社INAXは、今後も同様の事故が発生するおそれがあることから、平成20年12月16日プレス公表、ホームページでの告知を行い、平成20年12月17日に新聞社国を掲載して注意喚起を行うとともに、対象製品の無償点検、無償修理を実施しています。	㈱INAX（現㈱LIXIL）	DV-216H（自主点検対象品）
149	2008/10	―	暖房便座	大阪府	当該製品が焼損する火災が発生した。	⑦	F2	当該製品からの出火の痕跡はなく、事故当時、便座ヒーター部は通電していなかったことから、製品から出火した事故ではないと判断した。		―	―
148	2008/09	―	温水洗浄便座	熊本県	トイレの窓から発煙しているのを見つけて、扉を開けたところ、当該製品から火が出ていた。	⑦	－	事故原因は、長期間使用されていた当該製品の便座電気コードが断線したことにより出火に至ったものであるが、便座電気コードが断線に至った原因については特定されていない。	事故に至った製品は18年以上の長期間使用されていたものであり、便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けていて事故に至っています。製造事業者であるアイシン精機株式会社及び販売事業者である株式会社INAXは、事故の再発防止の観点から、平成20年11月26日プレス公表、平成20年11月27日（（株）INAX）、平成20年12月3日（予定・アイシン精機（株））に新聞への広告を掲載して、長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施しています。	アイシン精機㈱	CW-531（㈱INAX）（注意喚起対象機種）
147	2008/08	―	温水洗浄便座	沖縄県	和式便座にアタッチメントを付けて当該製品が設置されていたトイレから出火する火災が発生した。	⑦	E3	調査の結果、当該製品の便座シートのゴム脚とアタッチメントの間に電源コードが挟まれた状態で使用されていたため、電源コードが損傷し、断線、ショートして発火したものと判断した。		―	―

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
146	2008/08	約8年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙して、外郭の一部が変形した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	2007（平成19）年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	TOTO㈱	TCF945L（自主点検対象品）
144	2008/07	—	温水洗浄便座	愛知県	家人がトイレから出火しているのに気付き、消火した。当該製品の一部が焼損し、トイレ内が汚損した。	⑦	－	事故原因は、当該製品のヒーター線の端子のはんだ付け部が、長期間（18年間）使用されている間に、はんだ割れをおこし、出火に至ったものと考えられる。	引き続き同様の事故発生に注視していくとともに、必要に応じて対応を行うこととする。	日立化成工業㈱（現 ㈱ハウステック）	HC-200C
143	2008/06	約9年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から異臭がして、タンクの内部が焦げ、外郭の一部が変形した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	2007（平成19）年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	TOTO㈱	TCF960（自主点検対象品）
142	2008/06	—	温水洗浄便座	愛媛県	トイレの扉を開けたところ、トイレ内が煤で真っ黒になっており、当該製品の一部が焼損していた。	⑦	－	事故原因は、長期間使用されていた当該製品の便座電気コードが断線したことにより出火に至ったものであるが、便座電気コードが断線に至った原因については特定されていない。	事故に至った製品は18年以上の長期間使用されていたものであり、便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けていて事故に至っています。製造事業者であるアイシン精機株式会社及び販売事業者である株式会社INAXは、事故の再発防止の観点から、平成20年11月26日プレス公表、平成20年11月27日（（株）INAX）、平成20年12月3日（予定・アイシン精機（株））に新聞への広告を掲載して、長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施しています。	アイシン精機㈱	CW-531（㈱INAX）（注意喚起対象機種）
141	2008/05	約2年	温水洗浄便座	－	子供が当該製品の便座内側前部で身体の一部を挟み、けがを負った。	③	E2	便座内側前部にバリや鋭利な部分はみあたらず、被害者が便座にはまり込んだ状態から勢いよく飛び出した際にけがを負ったとのことから、便座にはまり込んだため便座内側前部に皮膚を強く押し当ててしまい、飛び出した際に皮膚を擦ってしまったためけがを負ったものと推定される。	被害者の不注意とみられる事故であるため、措置はとらなかった。	—	—
140	2008/05	—	温水洗浄便座	宮崎県	トイレに行くと当該製品の本体左袖部の前面が焦げ、トイレ内が煤けていた。	⑦	－	調査の結果、内部部品に洗剤や尿が付着し、トラッキングが発生したものと判断された。事故品は一部焼損している部分があるが、残存する外郭ケースには隙間やひび割れ等は確認されなかった。また、同等品による再現試験（注水試験）でも水の浸入はみられなかったため、外郭ケース内に洗剤や尿が浸入した原因の特定には至らなかった。	因の特定には至らなかったため、引き続き同様の事故発生について注視し、必要に応じて対応を行うこととする。	松下電器産業㈱（現パナソニック㈱）	DL-153
139	2008/04	—	暖房便座	高知県	当該製品を使用していたところ、太ももに火傷を負った。	②	F2	査の結果、介護者は、短時間で当該製品に接触していた部分を火傷したとしているが、製品の温度制御に異常は認められず、誤作動をすることもなかったことから、製品に起因する事故ではないと判断した。		—	—
138	2008/04	約8年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	2007（平成19）年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF945L（自主点検対象品）
137	2008/04	—	温水洗浄便座	千葉県	トイレより出火しているのを発見し消火した。本体の一部及び延長コードが焼損した。	⑦	－	事故原因は、便座ヒンジピンが脱落した状態で使用したために、便座電気コード取付け部に余計な負荷が加わったことにより、便座電気コードが断線し、出火に至ったものと考えられる。	事故に至った製品は18年以上の長期間使用されていたものであり、便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けていて事故に至っています。製造事業者であるアイシン精機株式会社及び販売事業者である株式会社INAXは、事故の再発防止の観点から、平成20年11月26日プレス公表、平成20年11月27日（（株）INAX）、平成20年12月3日（予定・アイシン精機（株））に新聞への広告を掲載して、長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施しています。	アイシン精機㈱	ｼｬﾜｰﾄｲﾚH1（㈱INAX）（注意喚起対象機種）
136	2008/04	—	温水洗浄便座	兵庫県	当該製品が設置されていたトイレに行くと煙が充満しており、操作部付近より出火した。	⑦	E2	調査の結果、長期間（22年間）の使用により当該製品の操作部表面シートに割れや剥がれが生じ、洗浄剤等液体が侵入して洗浄機能が壊れた状態のまま、便座ヒーター機能を使用し続けていたため、液体がコネクタ部にかかり、トラッキングが発生したものと判断した。		—	—
135	2008/04	—	温水洗浄便座	東京都	ビルのトイレに設置された当該製品のプラグが焼損する火災が発生した。	⑦	F2	調査の結果、プラグの差し込みが十分でなく、コンセントとプラグ本体との間に隙間があいている状態で、外部から何らかの伝導性の異物が隙間に入ったため、両プラグ刃間がショートしたものと判断した。	製品起因ではないと思われるため措置は実施せず。	—	—

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
134	2008/03	―	暖房便座	岩手県	当該製品を使用中に低温火傷を負った。	②	F2	調査の結果、当該製品に異常は認められなかった。使用者が当該製品を使用中に意識を失い長時間接触していたため、低温火傷を負ったもの判断した。		―	―
133	2008/01	約9年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から黒煙が出た。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	2007（平成19）年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付するなど捕捉に努め、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF970（自主点検対象品）
131	2007/07	約7年	暖房便座	－	電気便座を低温設定にして使用していたところ、便座が異常に熱くなった。	⑥	G1	事故品の各設定温度で便座表面を確認したところ火傷が生じるような高温には至らず、内部の制御基板にも発熱した痕跡は確認されなかったことから、原因は特定できなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	―	―
130	2007/03	約3年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の具合が悪いので取り外して、電源コンセントを入れたままにしていたところ、異臭がして発煙した。	⑤	E2	被害者が事故品の水を抜き、取り外して立てたままの状態で電源コンセントを入れたために、温水タンクの水位を検出するフロートスイッチが入った状態になった。そのために、温水用ヒータが通電状態になり、その過熱により温水ヒータの取付部分が溶解し異臭及び発煙に至ったものと推定される。 なお、取扱説明書には、「必ず差込みプラグを抜いてから手入れする。」旨記載されている。	被害者の不注意とみられる事故であるため、措置はとらなかった。	―	―
129	2006/12	15年10ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の電源プラグをコンセントに差したところ、便座から発煙と異臭がした。	⑤	C1	長期使用（約15年10か月）により、コントローラ基板上のスイッチング素子が熱ストレス等により内部短絡し、発熱・発煙したものと推定される。	経年劣化による事故とみられ、他に同種事故は発生しておらず、異常時には安全装置により通電を遮断することから、拡大被害に至る危険性が低いため、措置はとらなかった。 なお、当該品の製造は既に終了している。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF431 #SR2
128	2006/07	約2年8か月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座を使用中に洗浄ボタンを押したところ、熱湯が出て肛門に火傷を負った。	③	G1	内部に異常は確認できず、正常に作動し、機械式の安全装置も正常に作動することから、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。 なお、今後開発していく商品に関して、安全性向上を目的として更なる製品改良・品質改善の検討に取り組む。	―	―
127	2008/02	―	温水洗浄便座	福島県	当該製品の電源プラグを差し込んでいるコンセント部周辺から発火したと思われる火災が発生した。	⑦	E2	調査の結果、当該製品の電源プラグとコンセント付近に水分や洗剤等が付着したことによるトラッキング現象と判断した。		―	―
126	2007/10	約13年	温水洗浄便座	－	長期使用（約13年以上）により、当該品のコントローラー基板上のリレー回路を構成しているコンデンサー及び抵抗がショートしたため、温風モーターが回転しない状態で温風ヒータに通電されて、温風ダクトが加熱され発煙したものと推定される。 なお、事故品は安全装置（温度ヒューズの溶断）が作動して、温風ヒータへの通電は遮断されていた。	⑤	C1	長期使用（約13年以上）により、当該品のコントローラー基板上のリレー回路を構成しているコンデンサー及び抵抗がショートしたため、温風モーターが回転しない状態で温風ヒータに通電されて、温風ダクトが加熱され発煙したものと推定される。 なお、事故品は安全装置（温度ヒューズの溶断）が作動して、温風ヒータへの通電は遮断されていた。	温風ヒータに取付られた温度ヒューズによって、通電は遮断され拡大被害に至る可能性は低いことから措置はとらなかった。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF470 #SS4
125	2008/01	不明	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座からプラスチックが溶けるようなにおいがした。	⑤	A2	フィルムコンデンサーのはんだ付け部に不良があったため、はんだクラックが生じて接触不良となり、異常発熱して焼損し、異臭がしたものと推定される。	他に同種事故発生の情報がなく、単品不良とみられる事故であるため、措置はとらなかった。 なお、当該品は既に生産を終了している。	アサヒ衛陶㈱	DLS－64－BG
124	2008/01	約7年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座付近から発煙し、樹脂部分の一部が変形、変色した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF945L（自主点検対象品）
123	2008/01	―	温水洗浄便座	熊本県	煙の異臭に気がつきトイレを確認すると、当該製品が焼損していた。その際、家人が軽い火傷を負った。	⑦	－	調査の結果、当該製品は焼損が著しく、詳細な調査ができなかったため、出火元かどうか、原因の特定には至らなかった。なお、同型式で同様な事故は起きていない。	これまで同一機種による類似事故の発生がないことから、引き続き同様の事故発生について注視していくとともに、必要に応じて対応を行うこととする。	TOTO㈱	TCF631
122	2007/11	約8年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座が焦げて、発煙した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF975（自主点検対象品）
121	2007/11	約7年8ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF965L（自主点検対象品）
120	2007/11	―	温水洗浄便座	広島県	家人が異音に気づき、トイレを見たところ出火していた。	⑦	－	事故原因は、便座固定用ゴム台が外れ、便座ヒンジ部が破損したまま使用を継続したために便座電気コード取付け部に余計な負荷が加わったことにより、便座電気コードが断線し、出火に至ったものと考えられる。	事故に至った製品は18年以上の長期間使用されていたものであり、便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けていて事故に至っています。製造事業者であるアイシン精機株式会社及び販売事業者である株式会社INAXは、事故の再発防止の観点から、平成20年11月26日プレス公表、平成20年11月27日（（株）INAX）、平成20年12月3日（予定・アイシン精機（株））に新聞への広告を掲載して、長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施しています。	アイシン精機㈱	CW-CⅡF（㈱INAX）（注意喚起対象機種）

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
119	2007/09	―	温水洗浄便座	秋田県	店舗に設置された当該製品が燃えているのを発見した。	⑦	F2	調査の結果、製品内部からの発火の痕跡は認められなかった。		―	―
118	2007/10	約8年	温水洗浄便座	－	暖房便座から焦げ臭いにおいがした。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付するなど捕捉に努め、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF975（自主点検対象品）
117	2007/10	約6年10ヶ月	温水洗浄便座	－	暖房便座から焦げ臭いにおいがした。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付するなど捕捉に努め、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF970（自主点検対象品）
115	2007/09	約5年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF975L（自主点検対象品）
114	2007/08	約7年5ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF960（自主点検対象品）
113	2007/06	約19年	温水洗浄便座	－	掃除のため温水洗浄便座の便座を上げたところ、便座と本体を接続する配線部分から「バチッ」と音がして発煙した。	⑤	G1	当該品の便座固定部（2箇所）の右側ヒンジピンが折れて抜けたため、左側便座固定部に使用者の着座時の応力が集中し、固定部内の便座コードが機械的ストレスを受けて断線・スパークし、発煙したものとみられるが、折れたヒンジピンは紛失しており、欠落時点についても不明であるため、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	―	―
112	2007/06	約19年	温水洗浄便座	－	掃除のため温水洗浄便座の便座を上げたところ、便座と本体を接続する配線部分から「バチッ」と音がして発煙した。	⑤	G1	当該品の便座固定部（2箇所）の右側ヒンジピンが折れて抜けたため、左側便座固定部に使用者の着座時の応力が集中し、固定部内の便座コードが機械的ストレスを受けて断線・スパークし、発煙したものとみられるが、折れたヒンジピンは紛失しており、欠落時点についても不明であるため、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	―	―
111	2007/06	―	温水洗浄便座	大阪府	トイレからの異音に気づき、家人がトイレを確認したところ、ぼやを発見し、消火した。	⑦	－	事故原因は、長期間使用されていた当該製品の便座電気コードが断線したことにより出火に至ったものであるが、便座電気コードが断線に至った原因については特定されていない。	事故に至った製品は18年以上の長期間使用されていたものであり、便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けていて事故に至っています。製造事業者であるアイシン精機株式会社及び販売事業者である株式会社INAXは、事故の再発防止の観点から、平成20年11月26日プレス公表、平成20年11月27日（(株)INAX）、平成20年12月3日（予定・アイシン精機(株)）に新聞への広告を掲載して、長期間使用されている対象製品の使用に関する注意喚起を行うとともに、対象製品について不具合確認作業を無償で実施しています。	アイシン精機㈱	CW-531（㈱INAX）（注意喚起対象機種）
110	2007/06	約5年	温水洗浄便座	－	家に入ったら、焦げ臭いにおいがし、2階のトイレの温水洗浄便座のノズルの先端が黒く焦げていた。	⑤	G1	焼損部に電気部品等はなく内部から発火した痕跡は確認できなかったことから、原因の特定はできなかった。	事故品原因が不明であるため、措置はとれなかった	―	―
109	2007/06	約5年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙した。	⑤	A2	コントロール基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響によって基板とのはんだ付け部で、はんだクラックが生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF970L（自主点検対象品）
108	2007/05	約5年	温水洗浄便座	－	電気便座付近から異臭がするので、内部を確認したところ、発煙した形跡があった。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF970L（自主点検対象品）
106	2005/12	約10年2ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座が燃えて、小火になった。	④	G1	便座の中央部が焼損していることから、発火元の可能性が高いと考えられるが、発火元となる痕跡は確認できず、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	―	―

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
105	2007/4	約5年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙した。	⑤	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、新聞の折り込み広告の配布及びユーザーにDMを送付し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF965（自主点検対象品）
103	2007/3	約7年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の外郭の一部が焼損して変形し、壁に煤がついた。	④	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF975L（自主点検対象品）
102	2007/3	約5年7ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙して外郭右側の一部が変形し、内部のコントローラーの一部が焼損した。	④	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF965L（自主点検対象品）
101	2007/3	約6年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の右側部から発火して外郭の一部を焼損し、壁の一部が黒く変色した。	④	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF965HY（自主点検対象品）
100	2007/3	約2年8ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から異臭がし、発煙した。	⑤	A2	洗浄用水ポンプのパッキンに異物が噛み込む等により漏水が発生したため、ポンプモーターが腐食し固着した際に、制御基板にモーターの過電流が流れて駆動素子が異常発熱し、部分的に焦げたものと推定される。	拡大被害に至る可能性が低いことから、既販品については措置はとらなかった。 なお、今後は製造作業をクリーンルームで行うこととし、さらに異物混入が発生した場合に備えて、本体に安全装置（電源ヒューズ）を追加した。	㈱INAX（現㈱LIXIL）	DV-215（自主点検対象品）
99	2007/2	約6年1ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発火して内部が溶解し、壁に煤がついた。	④	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF975L（自主点検対象品）
98	2007/2	約2年2ヵ月6ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙した。	⑤	A2	洗浄用水ポンプのパッキンに異物が噛み込む等により漏水が発生したため、ポンプモーターが腐食し固着した際に、制御基板にモーターの過電流が流れて駆動素子が異常発熱し、部分的に焦げたものと推定される。	拡大被害に至る可能性が低いことから、既販品については措置はとらなかった。 なお、今後は製造作業をクリーンルームで行うこととし、さらに異物混入が発生した場合に備えて、本体に安全装置（電源ヒューズ）を追加した。	㈱INAX（現㈱LIXIL）	DV-215（自主点検対象品）
95	2007/1	約2年7ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙し、本体が変形した。	⑤	A2	洗浄用水ポンプのパッキンに異物が噛み込む等により漏水が発生したため、ポンプモーターが腐食し固着した際に、制御基板にモーターの過電流が流れて駆動素子が異常発熱し、部分的に焦げたものと推定される。	拡大被害に至る可能性が低いことから、既販品については措置はとらなかった。 なお、今後は製造作業をクリーンルームで行うこととし、さらに異物混入が発生した場合に備えて、本体に安全装置（電源ヒューズ）を追加した。	㈱INAX（現㈱LIXIL）	DV-216（自主点検対象品）
92	2006/12	約2年7ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から異臭がし、本体の部屋暖房吹き出し口が溶融した。	⑤	A1	部屋暖房用のファンに埃が詰まり風量が低下したため、温風の温度が上昇し吹き出し口が溶融したものと推定される。	他に同種事故は発生しておらず、また、拡大被害に至る可能性が低いことから、既販品については措置はとらなかった。 なお、当該品は既に生産を終了しており、後継機種については、吹き出し口に安全装置（サーミスタ）を追加している。	㈱INAX（現㈱LIXIL）	DT-287
88	2006/12	約2年6ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙した。	⑤	A2	洗浄用水ポンプのパッキンに異物が噛み込む等により漏水が発生したため、ポンプモーターが腐食し固着した際に、制御基板にモーターの過電流が流れて駆動素子が異常発熱し、部分的に焦げたものと推定される。	拡大被害に至る可能性が低いことから、既販品については措置はとらなかった。 なお、今後は製造作業をクリーンルームで行うこととし、さらに異物混入が発生した場合に備えて、本体に安全装置（電源ヒューズ）を追加した。	㈱INAX（現㈱LIXIL）	DV-216（自主点検対象品）
87	2006/12	約6年4ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙し、変形した。	④	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF960（自主点検対象品）
86	2006/11	約2年2ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から異臭がし、発煙した。	⑤	A2	洗浄用水ポンプのパッキンに異物が噛み込む等により漏水が発生したため、ポンプモーターが腐食し固着した際に、制御基板にモーターの過電流が流れて駆動素子が異常発熱し、部分的に焦げたものと推定される。	拡大被害に至る可能性が低いことから、既販品については措置はとらなかった。 なお、今後は製造作業をクリーンルームで行うこととし、さらに異物混入が発生した場合に備えて、本体に安全装置（電源ヒューズ）を追加した。	㈱INAX（現㈱LIXIL）	DV-215（自主点検対象品）
75	2006/3	約5年11ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の外郭の一部が焼損し、トイレ全体に煤がついた。	④	A2	コントローラー基板上の温水ヒーター用コネクター接続部において、ある期間の部品メーカー製コネクターがメッキ不良を起こしやすい製品であったため、使用中の熱衝撃及び振動によりメッキが剥がれてコネクター部分が接触不良となり発熱し、発熱の影響により基板とのはんだ付け部で、はんだクラックを生じ、火花・発熱により基板が炭化し絶縁不良となり、異極間でスパーク・発火したものと推定される。	平成19年4月17日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で修理・点検を行っている。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF975（自主点検対象品）
72	2005/12	約17年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙し、便座部分が焼損した。なお、前日に便座スイッチを入れたが、事故当日は冷たかった。	④	C1	便座取付部分の電源リード線が断線しており溶融痕が認められたことから、長期使用（約17年）により、当該部分で便座開閉時の繰り返し屈曲による機械的ストレスを受け、リード線の芯線部分が半断線状態となり、短絡・スパークし、周辺樹脂に着火・延焼したものと推定される。	当該品は既に生産を終了しており、経年劣化とみられる事故であるため、措置はとらなかった。なお、平成2年以降に販売している後継機種は、リード線部分に屈曲応力が掛からない構造に変更している。	アイシン精機㈱	ｼｬﾜｰﾄｲﾚFⅢ（ブランド㈱INAX）（注意喚起対象機種）
66	2004/12	約10年	温水洗浄便座	－	集合住宅の4階の一室に設置された、洗浄乾燥機能付き暖房便座のコントローラー部品の一部が焼損した。	⑤	A2	コントローラー基板のソリッド・ステート・リレーが焼失しており、焦げの状況から当該部のはんだ付不良によるものと推定される。	当該品は既に生産を終了しており、他に同種事故が発生していないことから、措置はとらなかった。なお、現行生産品においては、コントローラーのはんだ工程の品質管理の強化を図った。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF470

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
62	2003/6	6年11ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座を使用し10分ほど経過したところ、本体内部から発煙、出火しているのに気付き、便器内の水をかけて消火した。	④	A2	AC基板及び便座中央部ノズル付近に焼損箇所が認められ、AC基板については、温水ヒーター電源用コネクタの基板取付部のはんだ付け不良（クラック等の発生）があり、当該箇所でアークを生じ、基板内のポリウレタン充填剤及び基板ケースに着火したものと推定される。温水便座中央部ノズル付近については、電装部品であるモーターに発火の痕跡はなく、AC基板からの延焼についても再現せず、原因の特定はできなかった。	はんだ工程の品質管理の強化を図った。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF741
56	2000/1	約3年6ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の一部が焼損した。	⑤	A2	コントロール基板とリード線のはんだ付け不良（追いはんだの不良）によって接触不良となり、発熱・発火したものと推定される。	他に同種事故は発生しておらず、単品不良とみられる事故であるため、措置はとらなかった。 なお、当該品は既に生産を終了しており、後継機種については、作業者に追いはんだ付けに係る再教育を実施した。	アイシン精機㈱	CW-741（ブランド㈱INAX）
55	1999/12	約4年	温水洗浄便座	－	保温便座が異常音を生じて発煙し、発火した。火がすぐ消えたために拡大被害はなかった。	⑤	A2	コントローラに搭載している温水コネクターのはんだ部分が焼損していることから、はんだ量が少なかったために、通電時に発生する熱の影響ではんだ部に亀裂が入り、半断線状態で徐々に加熱されて基板の焦げが進み発煙・発火したものと推定される。	当該製品は、現在製造中止であり、回路の周囲に可燃物が無く拡大被害の可能性が低いことから、特に処置はしない。 なお、現行生産品においては、コントローラのはんだ行程の品質管理の強化を図った。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF750
54	1999/4	―	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の便座表面の一部が焦げた。	⑤	A2	製造時の暖房便座用内部配線のコネクター圧着作業時に、内部配線に傷の付いたものが混入したか、または締め付けが強すぎたため、当該部分で接触不良となり発熱し、便座の樹脂部分を焦がし、最終的に内部配線が断線したものと推定される。	当該品は既に販売を終了しており、当該事故はいずれも製造後3年以内に発生していること、その後現在までに事故の報告はないことから、措置はとらなかった。 なお、カシメ加工時の強度向上及び被覆除去時の芯線への傷つきを防止するため、内部配線を単線からより線に変更した。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF621
53	1998/10	約4年	温水洗浄便座	－	使用中に焦げ臭いにおいがした後、使用不能となった。内部を観察すると、乾燥装置の温風ダクト樹脂部が溶融し、穴が開いていた。	⑤	A3	SSR（制御部分）のコンデンサの短絡により、温風ヒータ及び温水ヒータが連続通電状態となった。それによって、温風ダクトが加熱され、安全装置である温度ヒューズが作動し、ヒータへの通電が遮断されたが、その際に断熱材端部の温風ダクト樹脂部が一部溶融し異臭が発生した。温水ヒータも連続通電状態となったため、安全装置であるバイメタルが作動し、製品への通電が遮断され、使用不能となったものと推定される。	同型品については既に製造を終了しており、同種品については部品メーカーの変更、コンデンサーの検査体制の強化など品質管理を強化した。 また、平成7年3月以降の同種品については、コンデンサーの短絡などの不都合が生じても温風ダクト樹脂部に穴が空かないよう断熱材の大きさを大きくし、樹脂が溶ける温度以前にヒーターの電源が切れるように仕様を変更した。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF470
51	1997/6	約7ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の便座表面の一部が焦げた。	⑤	A2	製造時の暖房便座用内部配線のコネクター圧着作業時に、内部配線に傷の付いたものが混入したか、または締め付けが強すぎたため、当該部分で接触不良となり発熱し、便座の樹脂部分を焦がし、最終的に内部配線が断線したものと推定される。	当該品は既に販売を終了しており、当該事故はいずれも製造後3年以内に発生していること、その後現在までに事故の報告はないことから、措置はとらなかった。 なお、カシメ加工時の強度向上及び被覆除去時の芯線への傷つきを防止するため、内部配線を単線からより線に変更した。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF610
50	1997/1	約5ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の便座の一部が焦げており、トイレに煙が充満していた。	⑤	A2	製造時の暖房便座用内部配線のコネクター圧着作業時に、内部配線に傷の付いたものが混入したか、または締め付けが強すぎたため、当該部分で接触不良となり発熱し、便座の樹脂部分を焦がし、最終的に内部配線が断線したものと推定される。	当該品は既に販売を完了しており、単品不良と見られる事故であることから、措置はとらなかった。 なお、カシメ加工時の強度向上のため、内部配線を単線からより線に変更した。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF620
47	1996/5	約4ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の便座表面の一部が焦げた。	⑤	A2	製造時の暖房便座用内部配線のコネクター圧着作業時に、内部配線に傷の付いたものが混入したか、または締め付けが強すぎたため、当該部分で接触不良となり発熱し、便座の樹脂部分を焦がし、最終的に内部配線が断線したものと推定される。	当該品は既に販売を終了しており、当該事故はいずれも製造後3年以内に発生していること、その後現在までに事故の報告はないことから、措置はとらなかった。 なお、カシメ加工時の強度向上及び被覆除去時の芯線への傷つきを防止するため、内部配線を単線からより線に変更した。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF610
46	1996/4	約5年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から発煙した。	⑤	A2	製造時の作業ミスにより、便座部分のリード線が便座からはみ出したまま挟み込まれたため、芯線が半断線状態となり、短絡・スパークし、発煙・焼損したものと推定される。	他に同種事故は発生しておらず、単品不良とみられる事故であるため、措置はとらなかった。 なお、当該品は既に生産を終了しており、後継機種については、作業者にリード線挟み込み防止に係る再教育を実施するとともに、配線固定用テープ面積を拡大し、リード線が剥がれにくいものに変更している。	アイシン精機㈱	CW-531（ブランド㈱INAX）
45	1996/2	約3ヶ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の便座表面の一部が焦げた。	⑤	A2	製造時の暖房便座用内部配線のコネクター圧着作業時に、内部配線に傷の付いたものが混入したか、または締め付けが強すぎたため、当該部分で接触不良となり発熱し、便座の樹脂部分を焦がし、最終的に内部配線が断線したものと推定される。	当該品は既に販売を終了しており、当該事故はいずれも製造後3年以内に発生していること、その後現在までに事故の報告はないことから、措置はとらなかった。 なお、カシメ加工時の強度向上及び被覆除去時の芯線への傷つきを防止するため、内部配線を単線からより線に変更した。	東陶機器㈱（現TOTO㈱）	TCF630
39	2006/12	約9年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座が焼けて溶け、トイレ内が煤で黒くなった。	④	G1	焼損状態から暖房便座付近より出火したと考えられるが、焼損が著しく、残存していた制御基板、電源トランス等の電気部品から出火元となる痕跡は認められず、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	―	―
38	2006/9	約14年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から異臭がし、本体の一部が焼損した。	⑤	G1	当該機の本体と便座を接続するコードが損傷し、焼損した可能性が考えられるが、コードが損傷した原因の特定はできなかった。	2008（平成20）年11月26日付けホームページ及び11月27日付け新聞に「便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けると事故に至る可能性がある。」旨告知を掲載するとともに、DMを送付して注意喚起を行い、対象製品の不具合確認を無償で実施している。 なお、温水洗浄便座協議会では、2008（平成20）年11月17日付け新聞に事故防止のため告知を掲載するとともに、パンフレットを作成し、注意喚起を行っている。	アイシン精機㈱	CW-101（ブランド㈱INAX）（注意喚起対象機種）

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

2015.9 一般社団法人 日本レストルーム工業会

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
37	2006/6	5年6ヶ月	シート形	千葉県	製品便座付近の焼損	⑤		事故品の調査結果から、製品からの発火要因はないと判断。	製品起因ではないため措置は実施せず。	—	—
36	2006/5	約17年	温水洗浄便座	−	温水洗浄便座とトイレ内が焼損した。	③	G1	当該機の本体と便座を接続するコードが損傷し、焼損した可能性が考えられるが、コードが損傷した原因の特定はできなかった。	2008（平成20）年11月26日付けホームページ及び11月27日付け新聞に「便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けると事故に至る可能性がある。」旨告知を掲載するとともに、DMを送付して注意喚起を行い、対象製品の不具合確認を無償で実施している。 なお、温水洗浄便座協議会では、2008（平成20）年11月17日付け新聞に事故防止のため告知を掲載するとともに、パンフレットを作成し、注意喚起を行っている。	アイシン精機㈱	CW-530（ブランド㈱INAX）（注意喚起対象機種）
35	2006/3	約2ヶ月	温水洗浄便座	−	トイレのコンセント付近から発煙、温水洗浄便座の漏電遮断機付き電源プラグと壁面コンセントが焼損し、壁の一部を焦がした。	④	G1	当該機の電源プラグ部分の焼損が著しく、両栓刃とも溶断していたこと、またプラグ部分から塩素成分が検出されたことから、塩素を含む物質がプラグに付着し、トラッキング現象が発生した可能性が考えられるが、使用状況等が不明であることから、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	—	—
34	2006/2	約17年	温水洗浄便座	−	温水洗浄便座が焼損した。	⑤	G2	事故品の事故部位を入手できないことから、調査できなかった。	事故品の事故部位が入手できないことから、調査不能であるため、措置はとれなかった。	—	—
33	2006/1	約7年7ヶ月	温水洗浄便座	−	温水洗浄便座周辺から出火し、木造2階建て住宅約150平方メートルを全焼した。	④	G1	当該機の残存している部品には異常発熱した痕跡は認められず、焼損が著しいため、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	—	—
32	2005/8	不明	温水洗浄便座	−	電気製品量販店の1階トイレ内から出火し、温水洗浄便座の本体右上方の一部が溶けた。	⑤	E1	事故品の内部が異常に錆びており、トイレ用の酸、アルカリ性の洗浄剤のような強いにおいがしたことから、酸、アルカリ性の洗浄剤が使用されたことで、気化したガス等の影響で金属部分に異常な錆びが発生し、温度過熱防止サーモの端子接続部で接触抵抗が増大して過熱し、本体ケースに穴が開き、さらに洗浄剤の水分等が本体内部に浸入し、温度過熱防止サーモの端子間でトラッキング現象を起こし、発火したものと推定される。	消費者の誤使用とみられる事故であるため、措置はとらなかった。 なお、取扱説明書には、酸・アルカリ性の洗浄剤は本体内の金属部分などを腐食させるので使わないよう記載している。	—	—
31	2005/8	約15年	温水洗浄便座	−	温水洗浄便座が一部焼損し、トイレ室内が黒く汚損した。	④	G1	本体内部のプリント基板の底部に汚水等がたまった痕跡があるものの、完成品では水が浸入する部分がないことから、上ケースにひび割れや操作銘板の剥がれが発生し、その部分から清掃時の洗剤等が浸入し、内部のリード線を伝ってプリント基板のトライアックリード部でトラッキング現象が発生し、発熱、発火した可能性が考えられるが、上ケース上面の焼損が著しく、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	—	—
30	2003/12	約8年	温水洗浄便座	−	温水洗浄便座から発煙し、便座コードの一部が焦げた。	⑤	G1	当該機の本体と便座を接続するコードが損傷し、焼損した可能性が考えられるが、コードが損傷した原因の特定はできなかった。	2008（平成20）年11月26日付けホームページ及び11月27日付け新聞に「便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けると事故に至る可能性がある。」旨告知を掲載するとともに、DMを送付して注意喚起を行い、対象製品の不具合確認を無償で実施している。 なお、温水洗浄便座協議会では、2008（平成20）年11月17日付け新聞に事故防止のため告知を掲載するとともに、パンフレットを作成し、注意喚起を行っている。	アイシン精機㈱	CW-100（ブランド㈱INAX）（注意喚起対象機種）
29	2003/9	約16年	温水洗浄便座	−	温水洗浄便座の一部が焼損した。	⑤	G1	当該機の本体と便座を接続するコードが損傷し、焼損した可能性が考えられるが、コードが損傷した原因の特定はできなかった。	2008（平成20）年11月26日付けホームページ及び11月27日付け新聞に「便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けると事故に至る可能性がある。」旨告知を掲載するとともに、DMを送付して注意喚起を行い、対象製品の不具合確認を無償で実施している。 なお、温水洗浄便座協議会では、2008（平成20）年11月17日付け新聞に事故防止のため告知を掲載するとともに、パンフレットを作成し、注意喚起を行っている。	アイシン精機㈱	H1（ブランド㈱INAX）（注意喚起対象機種）
27	2003/7	約15年	温水洗浄便座	−	トイレの便座から発火し、トイレ内に煙が充満した。	⑤	E1	被害者は、事故発生以前から器具各部の異常（洗浄機能の故障、消臭機能の故障、異音）を知りながら使用を継続していたことにより、器具内部電磁弁等の水系統に水漏れが生じ、制御基板等に水が付着したために誤動作が発生し、消臭用モーターが長時間連続通電され続け、モーターコイルがレアーショートし、器具を焼損したものと推定される。	被害者の誤使用とみられる事故であるため、特に措置はとらなかった。	—	—
26	2003/1	約14年	温水洗浄便座	−	温水洗浄便座から異臭がして発煙し、本体が焼損した。	⑤	G1	当該機の本体と便座を接続する便座コードが損傷し、尿等が付着したためトラッキング現象が発生し、発煙した可能性が考えられるが、再現することができず、コードが損傷した状況等も不明であるため、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。なお、当該品は既に生産を終了しており、後継機種については、便座コードが外部に露出しない構造に変更している。	—	—
25	2002/12	不明	温水洗浄便座	−	温水洗浄便座の本体中央部とふたが焼け、トイレ内の壁がすすけた。	④	G1	消防の調査では、焼損状況から便座の可動部より出火し、便座ふた、本体フレームに延焼したものとみているが、便座可動部のリード線（暖房用ヒーター線）には異常がみられず、発火源は便座本体外部からと考えられるが、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、特に措置はとれなかった。	—	—
19	2001/1	約12年	温水洗浄便座	−	「バチバチ」という物音に気付き、トイレを見たところ、温水洗浄便座が発火していたので、台所の食器洗い桶を使い、水で消火した。	④	F2	温水洗浄便座の温水ノズル先端付近から類焼したものと考えられるが、当該箇所には電装部品等が無く、発火した痕跡が認められないためことから、製品に起因する事故ではないものと推定される。	製品に起因しない事故であるため、特に措置はとらなかった。	—	—
17	2000/6	約11年	温水洗浄便座	−	温水洗浄便座から発煙し、本体の一部が焼損した。	⑤	D2	当該品は平成3年に修理履歴があり、内部配線が正規の長さ以上で修理されていたため、正規の位置に収まらずベースカバーとベースプレート間に配線を挟み込んでいたことから、断線し発熱したもの推定される。	メンテナンス会社に対し、正規の修理を徹底するよう、修理方法の指導を実施した。	—	—
16	2000/2	約12年	温水洗浄便座	−	温水洗浄便座から異臭がして、本体の一部が焼損し、煤でトイレの内壁などを汚損した。	⑤	G1	当該機の本体と便座を接続するコードが損傷し、焼損した可能性が考えられるが、コードが損傷した原因の特定はできなかった。	2008（平成20）年11月26日付けホームページ及び11月27日付け新聞に「便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けると事故に至る可能性がある。」旨告知を掲載するとともに、DMを送付して注意喚起を行い、対象製品の不具合確認を無償で実施している。 なお、温水洗浄便座協議会では、2008（平成20）年11月17日付け新聞に事故防止のため告知を掲載するとともに、パンフレットを作成し、注意喚起を行っている。	アイシン精機㈱	H1N（ブランド㈱INAX）（注意喚起対象機種）

被害の種類 … ①死亡 ②重症 ③軽傷 ④被害拡大 ⑤製品破損 ⑥被害なし ⑦火災

2015.9 一般社団法人 日本レストルーム工業会

事故原因区分…別表

No.	事故発生日	製品の使用期間	品名	発生地域	事故内容	被害の種類	事故原因区分	事故原因	再発防止措置	社名	型式機種
15	2000/2	約10年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から異臭がし、本体の一部が焼損した。	⑤	G1	当該機の本体と便座を接続するコードが損傷し、焼損した可能性が考えられるが、コードが損傷した原因の特定はできなかった。	2008（平成20）年11月26日付けホームページ及び11月27日付け新聞に「便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けると事故に至る可能性がある。」旨告知を掲載するとともに、DMを送付して注意喚起を行い、対象製品の不具合確認を無償で実施している。 なお、温水洗浄便座協議会では、2008（平成20）年11月17日付け新聞に事故防止のため告知を掲載するとともに、パンフレットを作成し、注意喚起を行っている。	アイシン精機㈱	H1 （ブランド㈱INAX） （注意喚起対象機種）
14	2000/1	約3年6ヵ月	温水洗浄便座	－	被害者が「バーン」という音と煙に気付き、トイレの扉を開けたところ、トイレ室内が燃えていた。トイレ隣の洗面所からバケツ3杯の水をかけたが、火勢が衰えなかったため、消防	④	G1	事故品の基板部、便座部など一部が焼損又は紛失しており、入手した部品からは出火したとみられる痕跡がなかったため、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、特に措置はとれなかった。	—	—
13	1999/12	約2年2ヵ月	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から出火して2階を焼損し、被害者夫婦が軽い火傷をした。	③	G1	温水洗浄便座の本体左側の電気コードに芯線の欠損、スパーク痕等が多数みられたことから、本体左側付近から出火したものと推定されるが、トラッキングの痕跡等がなく、他の部分に関しても発熱痕跡等の事故原因となる事象を確認できず、事故原因を特定できなかった。	事故原因が不明であるため、特に措置はとれなかった。	—	—
12	1999/8	約13年8ヵ月	温水洗浄便座	－	トイレの温水暖房便座から発火していたので、消火器で消火した。なお、4日前に家人がトイレを掃除した際、温水暖房便座から少し煙が上がったことを確認している。	④	G1	便座暖房用ヒーター線が断線しており、当該断線部から洗剤の成分が検出されたこと、及びヒーター線の一本が異常に腐食していることから、掃除時の水掛け又は便座ヒーター線被覆の傷付けなどによるヒーター内部への水及び洗剤の浸入により、ヒーター線が腐食し、便座開閉時の屈曲により断線が生じ、断線間が発熱し、当日に着火・出火したものと推定されるが、ヒーター線内に水が浸入した原因は特定できなかった。	水の浸入による経年劣化事故であり、水の浸入の原因が不明ため、特に措置はとらなかった。 なお、平成2年以降の製品は、ヒーター線をヒンジ内部に通し、便座開閉時の屈曲応力がかからないようにするとともに、外部露出部がない構造に変更している。	—	—
11	1999/7	約10年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座の一部が焼損した。	⑤	G1	当該機の本体と便座を接続するコードが損傷し、焼損した可能性が考えられるが、コードが損傷した原因の特定はできなかった。	2008（平成20）年11月26日付けホームページ及び11月27日付け新聞に「便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けると事故に至る可能性がある。」旨告知を掲載するとともに、DMを送付して注意喚起を行い、対象製品の不具合確認を無償で実施している。 なお、温水洗浄便座協議会では、2008（平成20）年11月17日付け新聞に事故防止のため告知を掲載するとともに、パンフレットを作成し、注意喚起を行っている。	アイシン精機㈱	CW-530 （ブランド㈱INAX） （注意喚起対象機種）
10	1999/4	約18年	温水洗浄便座	－	トイレから黒煙が出ているのを発見し、消火するとともに消防署へ通報した。すすにより、トイレ内を汚損した。	④	E1	事故品は使用開始後18年を経過し、熱交換器からノズルへの給水ホース部にクラックが発生し漏水したため、100V充電部のバイメタルSW部を腐食させ、発火に至ったものと推定される。 なお、被害者は半年前から漏水に気付いていたが、ヒーター機能に異常がないため、水受けを置いて	被害者の誤使用とみられる事故であるため、特に措置はとらなかった。	—	—
9	1998/10	約10年	温水洗浄便座	－	便座から出火しているのを発見し、消防署へ通報するとともに、家族で消火した。トイレの天井や壁が、すすで汚損した。	④	G1	事故品の便座及び便蓋がほぼ完全に焼失していたこと、コントローラ上部の焼損度が比較的大きく、他のユニットの焼損度は小さいことから、発火源は便座部又はコントローラ部からと推測し、過酷な条件設定による試験を行ったが、便座部及びコントローラ部からの発火は確認できなかったため、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、特に措置はとれなかった。	—	—
8	1998/7	約2年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座が作動しないので、メーカーに連絡し、修理に来てもらったが部品の持ち合わせがないため、後日再修理することになった。 翌朝、トイレからプラスチックが焦げたようなにおいがし、操作部を触ってみると発熱しており、周辺には焦げ目がついていた。	⑤	D2	流量調整モーターが故障したが、修理業者が設計変更された制御基板等モーター以外のものを交換したところで修理を中断、電源を切らずに放置したため、制御基板上の流量調整モーター駆動用のICに過大な電流が流れ、破壊した際に短絡し、ICが連続加熱したことにより、周辺の樹脂を溶融させるとともに操作部の発熱に至ったものと推定される。	品質管理の強化及びメンテナンス修理者の教育の徹底を図った。	—	—
6	1997/9	約6年6ヵ月	温水洗浄便座	－	自宅のトイレから発煙しているのを発見し、タオルを用いて消火した。	④	G1	暖房便座のヒータにつながるリード線の被覆に傷がつき、水、洗剤によってリード線が腐食し、便座の開閉により断線したため、トラッキング現象により発火したものとみられるが、いつの時点で傷がついたのか等、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明のため、措置はとれなかった。 なお、設計強度上センサー線がヒータ線より先に断線し、ヒータ線が効かないようにしている。	—	—
5	1996/9	約7年	温水洗浄便座	－	温水洗浄便座から異臭がし、本体の一部が焼損した。	⑤	G1	当該機の本体と便座を接続するコードが損傷し、焼損した可能性が考えられるが、コードが損傷した原因の特定はできなかった。	2008（平成20）年11月26日付けホームページ及び11月27日付け新聞に「便座が暖まらないなどの不具合がある状態で使用を続けると事故に至る可能性がある。」旨告知を掲載するとともに、DMを送付して注意喚起を行い、対象製品の不具合確認を無償で実施している。 なお、温水洗浄便座協議会では、2008（平成20）年11月17日付け新聞に事故防止のため告知を掲載するとともに、パンフレットを作成し、注意喚起を行っている。	アイシン精機㈱	CW-100 （ブランド㈱INAX） （注意喚起対象機種）

	区分記号		事故原因区分
製品に起因する事故	A		**専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの**
		A1	設計不良
		A2	製造不良
		A3	品質管理不十分
		A4	表示又は取扱説明書の不備
	B		**製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの**
		B1	設計不良で使い方も事故発生に影響
		B2	製造不良で使い方も事故発生に影響
		B3	品質管理不十分で使い方も事故発生に影響
		B4	表示又は取扱説明書の不備で使い方も事故発生に影響
	C		**製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの**
		C1	経年劣化
製品に起因しない事故	D		**業者による工事、修理、又は輸送中の取扱い等に問題があったと考えられるもの**
		D1	業者の設置・施工不良
		D2	業者の修理不良
		D3	業者による輸送中の取扱いの不備
	E		**専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの**
		E1	消費者の誤使用
		E2	消費者の不注意
		E3	消費者の設置・施工不良
		E4	消費者の修理不良
	F		**その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係すると考えられるもの**
		F1	製品には起因しない偶発的事故
		F2	その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係するもの
	G		**原因不明のもの**
		G1	原因不明
		G2	調査不能
		G3	製品起因であるが、その原因が不明のもの
	H		**調査中のもの**
		H1	調査中
		H2	係争中